

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

きょうさいだより



写真コンテスト入賞作品「早春の九十九島」 古賀 嘉代子

SASEBO KYOSAI HOSPITAL

〒857-8575 長崎県佐世保市島地町10番17号
(代表)TEL0956-22-5136

患者紹介受付専用FAX ☎ 0120-12-2067

ホームページ <http://www.kkr.sasebo.nagasaki.jp>

急患室直通FAX電話 0956-22-6052 (代表)FAX 0956-25-0662

※休日・夜間のご連絡は、急患室直通的番号でご連絡下さい。

ごあいさつ

院長 福井 仁士



本年も終わりに近づきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ご存知の方もおられるかもしれませんが、現在私は腹部腫瘍の加療のため10月初めより、福岡市の浜の町病院に入院しており、佐世保共済病院をお留守にしております。皆様にはいろいろとご迷惑をお掛けしております。

この間、かなりきつい化学療法を受けてきましたが、10月下旬に九州と韓国南部合同での脳神経外科学会が博多オークラホテルで開催されましたので、浜の町病院から遠くないこともあり、参加することにしました。

この会は、今から17年前、私が九州側の代表として始めた会です。パンケットの挨拶として、私は今回の会の17年の歴史をあらためて紹介しました。右の写真は、2年前に私が製作した会の歴史をまとめたパンフレットの表紙です。

パンフレットのタイトルにあるYeong-Honamというのは、韓国南部という意味で、Jeong-Nam(嶺南 ヨンナム)とHo-nam(湖南 ホナム)の合成語です。朝鮮半島の中央部に太白山(テベクサン)と小白山(ソベクサン)という山脈が縦走しており、それらの山脈の南側を嶺南といい、かつての新羅王朝の領域だったところです。一方、湖南とは、百濟王朝の領域だったところです。朝鮮半島の南部を占めるこれらの地域は古来なにかと日本ともゆかりが深かったところです。

これらの地域(韓国南部)に在住する脳神経外科医と、九州在住の脳神経外科医の交流を目的とするのが、この会の設立目的でした。幸いなことに、設立後17年間、この会は順調に存続してきました。私のパンケットでの挨拶は、この会の歴史を紹介するとともに、今後もこの脳神経外科医の交流が継続することを希望する、という内容となりました。

この会には多くの日韓の会員が参加していました。右の2枚目の写真は、私と韓国側の会員の一部とで撮った記念写真です。今後ともこの会が有意義なものとして続いていくことを、期待してやみません。

今年もまもなく終わりますが、できれば来年は復帰したいと思っております。皆様方にふたたびお会いできますように。よいお年をお迎えください。

Yeong-Honam and Kyushu Neurosurgical Joint Meeting since 1990

Masashi Fukui, M.D., Ph.D.
Emeritus Professor, Kyushu University
Director, Sasebo Kyosai Hospital



The flower of Korea



The flower of Japan



学術講演会報告

内科部長

おかむら ひでき
岡村 秀樹

■日 時:平成19年11月15日(木) 18時45分より

■会 場:北館8階大講堂

■演 題:食生活の変化で増加してきた疾患

■演 者:佐賀大学消化器内科教授

藤本 一眞 先生



藤本教授は、昭和50年代後半に九州大学第一内科で肥満の研究に従事されており、その頃の話から講演が始まりました。当時は、時代が進むにつれて脂肪摂取が増加し、肥満症や成人病(生活習慣病)が急増すると予想されており、その対策(治療)が研究テーマであったとのことでした。

肥満の研究と同時に消化器疾患の診療にも従事されていたわけですが、講演の前半は、時代と共に食生活が欧米化し、潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患が増加傾向にあることなどを具体的に解説されました。後半は最近話題となっているメタボリック・シンドロームのお話でした。重要な点は、肥満を解消することとあり、そのためには体重を定期的かつ頻回に測定し、食事の食べ方や摂取量に注意するという点に尽きることでした。

学術講演会報告

内科医長

ふじ さわ のぶみつ
藤澤 伸光

■日 時:平成19年10月3日(水) 18時45分より

■会 場:北館8階大講堂

■演 題:肺がんの治療の今

～イレッサを含む最新の治療とその成績について～

■演 者:九州大学大学院呼吸器内科教授

中西 洋一 先生



肺癌は、現在日本における癌死亡の原因でトップであり、患者数も増え続けています。今回は、肺癌の標準的な治療法を化学療法・放射線療法を中心に、最新の知見についてご講演いただきました。非小細胞肺癌については、早期癌であれば手術が第1選択であるが、腫瘍のサイズ等によっては内服や点滴による術後補助化学療法が必要であること、局所進展型であれば化学療法+放射線療法が、進展型であれば化学療法が選択されることが説明されました。化学療法は現在ではプラチナ製剤と、タキサン系などの「ニュードラッグ」と呼ばれる薬剤の2剤組み合わせで好成績を収めていること、また、女性・非喫煙者・腺癌等に対しては、イレッサが効果的であることが紹介されました。

人間ドックの食事ご紹介

給食課係長

もり た ひね じろう
森田 宗次郎

今回は人間ドック受診者の食事についてご紹介させていただきます。

私たちの住む佐世保は、幸いにも四季を通じて多彩な「旬の食材」に恵まれています。そこで、この新鮮な海の幸や山の幸を使った郷土料理を考案しました。また、古来から窯元が点在する有田にも隣接している地域性を生かし、器にもこだわっています。掲載している料理は、晩秋から初冬にかけての献立で、地元で特色のある食材に手間暇をかけた創作料理です。作るもの全てが自信作ですが、地魚のつみれや地鶏のロールキャベツ、飛竜頭(がんもどき)等を盛り込んだ味噌風おでん鍋や、この時期、九十九島で獲れる打ち牡蠣の雑炊は好評で、見た目や味だけでなく栄養面でも考慮した内容になっていますので、胃の中から優しく癒してくれることと思います。

皆様もぜひ、機会があれば佐世保共済病院の人間ドックを受診され、真心のこもった暖かい創作料理をご堪能下さい。





(はじめに)

最近CKDという言葉が耳にされたことがあるのではないのでしょうか。尿蛋白陽性の腎疾患、もしくは腎機能低下が3ヶ月以上続く状態を慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease:CKD)と定義し、慢性腎臓病対策を進める取り組みが世界的に行われています。腎臓病は心血管疾患の危険因子であることが明確になり、寿命にも大きく関与いたします。高血圧、糖尿病のメタボリックシンドローム対策と並んで国民の重要な健康課題に挙げられております。

現在、わが国の透析患者数は日本全国で約26万4千人であり、新たに透析を導入される患者数は毎年3万6千人にも上ります。今や500人に1人が透析を受けており、透析にかかる医療費が年間一兆円を超える時代を迎えています。現在、長崎県の透析患者数は約3千3百人であり、1998年以降、透析導入の原因疾患の第一位は糖尿病です。この傾向は世界中でも言われており、1990年から2010年までの20年間で、透析が必要な患者数は43万人から210万人(約5倍)に増えることが予測されております。これは糖尿病の患者数が増加したことが大きな要因となっております。

(当院の透析の現状)

当院の透析の特徴は、まず外科、整形外科、耳鼻科、眼科といった他科との協力体制が速やかに出来ることが挙げられます。透析患者さんの糖尿病性網膜症などの合併症の管理治療を平行して行い、上部内視鏡検査などの全身管理、術前術後管理など多角的視野からバックアップ出来ます。一般病棟も充実しており、透析後の発熱・血圧低下などにも対応し、当直体制の充実により夜間緊急時の透析も速やかに行われます。新たに透析を始める患者さんは年間約20人であり、当院の維持透析患者数も増加傾向にあります。また、透析ベット数も平成19年に増床し、現在31床で稼動しております。

(人)

	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
新規透析導入患者数	18	18	18	16	20	9	18	16	21
維持透析患者数	44	43	47	57	63	61	68	73	79

(診療について)

胸部レントゲン検査、血液検査を定期的に行い、理想体重や貧血管理、副甲状腺ホルモンなどのホルモン管理を厳密に行っております。腹部エコー検査、上部消化管内視鏡検査などの全身管理にも積極的に取り組んでおります。透析毎に出来るだけ回診し、患者さんとのコミュニケーションを大事にしております。透析管理は、医療側の努力だけではうまくいかないのが特徴です。患者さんと協力関係を築き上げる必要があります。そして患者さんの食事内容や水分摂取量が特に重要になってきます。体調の変化を日常会話の中で知ることが多く、より話しやすい温かい環境作りにも心がけております。

また、精神的なストレスに対するケアも課題です。

より笑顔で充実した透析生活を送っていただきたいとスタッフ一同考えております。仕事や旅行の相談にも応じ、患者さんの社会生活の充実にも協力させていただいております。

(特殊な血液浄化療法)

当院では、血液透析以外にも特殊な血液浄化療法を行っております。潰瘍性大腸炎の患者さんに対し、白血球除去療法を年間約10人程度おこなっており、優れた治療効果が得られております。重症感染症、敗血症性ショックに対してエンドトキシン吸着、血漿交換、閉塞性動脈硬化症に対して二重濾過透析、LDLアフェレーシスなどにも取り組んでおります。また、肝硬変などに合併した難治性腹水に対する腹水再灌流や、急性腎不全に対する持続的血液濾過透析も行っております。長崎県は離島が多いのが特徴ですが、通院困難な患者さんを対象に腹膜透析も行っております。



(人)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
血漿交換療法	1	17	11	13	4	0	19
白血球除去療法	10	10	10	40	38	21	35
エンドトキシン吸着療法	2	5	3	4	0	4	10

(今後の展望)

長期透析に伴う骨病変などのさまざまな合併症に対し、有効な透析血液透析濾過の増床に力を入れていきたいと考えております。在宅血液透析も近年行われていますが、今後は施設見学などの取



■透析室スタッフ

組みが課題です。学会発表にも積極的に参加し、よりよい透析療法を探求していき患者さんにフィードバックしたいと考えております。また、IgA腎症、糖尿病性腎症などの保存期慢性腎不全の積極的な治療にも取り組んでまいります。

最後になりましたが、当院では地震、停電、火災などの災害対策を行っておりますが、佐世保地区全体としての災害時の協力体制も確立されました。よりいっそうの整備対策を確立して行きたいと考えております。

新採用医師の紹介

①出身大学・卒業年度 ②在籍医局
③専門領域 ④出身地 ⑤趣味、その他一言



やすだ しおと
内科 安田 潮人

- ① 久留米大学 H11年卒
- ② 九州大学 第1内科 循環器研究室
- ③ 循環器
- ④ 北九州市小倉区
- ⑤ インドア・アウトドア全般。釣りに行きたいのですがまだ仕事に慣れていませんので今は封印中です。よろしくお願いします。



OB に聞く Part. 11

たなかこどもクリニック

佐世保市光月町1-18
TEL:0956-26-4500

た な か ひ ろ や

院長 田中博弥先生

今回はいつも患者さんのご紹介をいただいている田中博弥先生をお尋ねしました。



Q 共済病院との御縁は？

A 私は昭和32年に佐世保で生まれ、戸尾小学校に通っていたときから共済病院の裏山で遊んでいました。昔は今のB棟宿舎の下あたりに防空壕があって、遊び場のひとつでした。その縁からかわかりませんが、長崎大学小児科の医局人事で、共済病院には研修医時代も含めて約5年間お世話になりました。平成4年から平成8年までが一番長い勤務期間でした。その後、平成10年に開業しました。

Q その頃の病院の様子は？

A その頃、小児科の病室はまだ古い南病棟にあって、未熟児室もお世辞にもきれいとはいえませんでした。そのなかで出生体重1,000g前後の未熟児をスタッフみんなでがんばって診ていました。冬の寒い中、産科病棟との渡り廊下を未熟児を入れた保育器をゴロゴロと押して入院させていたことを思い出します。

Q 思い出に残る事は？

A 私事で恐縮ですが、うちの双子たちが共済病院で生まれたとき立ち会って蘇生した事です。家内が切迫早産で共済病院の産科に長く入院していて、木寺先生をはじめスタッフの方々に大変お世話になりました。そのとき帝王切開で生まれた双子たちも今は中学3年生です。

Q たなかこどもクリニックの特色は？

A 特にこれといってありませんが、病気の子どもたちにはやさしく、親切第一で接していこうと思っております。親御さんには時に厳しいですが…

Q 共済病院へのご注文などは？

A 今まで小児科の岡先生をはじめ、いろいろな科の先生、スタッフの方々にお世話になり感謝しております。ただ、小児科医不足から来年度より大学医局からの医師の派遣が中止になり、小児科は縮小されると聞きました。OBの一人として残念でなりません。一日も早く小児科が再開されることを願っております。



■田中先生とスタッフの皆さん

『秋田わか杉国体』に参加して

日本の伝統的武道のひとつである『弓道』。
今年、10月5日～10月8日に秋田県で開催された『秋田わか杉国体』の弓道競技に、私たち事務員の田渕賢太郎と看護師の松尾英子の2人が長崎県代表として参加しました。
弓道は一般的なイメージにあるとおり、技術の他に強い精神力と揺るぎない平常心が求められ、張りつめた緊張感の中で確実に矢を的中させることが求められる競技です。

国体の弓道競技は3人1組の団体戦で、28m先にある36cmの的を狙う近的競技と、60m先にある1mの的を狙う遠的競技の2種目が行われます。毎年春に開催される長崎県の国体選手選考会で、私たちは男女3名ずつの代表枠を勝ち取り、秋田国体までの半年間、仕事の傍ら厳しい合宿を乗り越えてきました。

九州ブロックや長崎県規模の試合で多くの実績を引っさげて臨んだ秋田国体でしたが、全国のレベルは予想以上に高く、残念ながら男女とも予選通過には至りませんでした。しかし、長崎県代表の選手、また佐世保共済病院の職員として、この国体に参加できたことは非常に光栄なことであると思っています。多くの方々から温かいご声援をいただいたことを本当に感謝しています。

弓道は、老若男女を問わず一生現役として取り組んでいける種目です。どうぞ弓道に興味のある方、やってみたいと思う方、ぜひ名切町にある県立武道館弓道場に足を運んでみてください。



年末年始の当直体制 (平成19年12月29日～平成20年1月3日)

	内科系当直		外科系当直	
	8:30～17:30	17:30～翌8:30	8:30～17:30	17:30～翌8:30
平成19年12月29日(土)	放射線科	内 科	外 科	整形外科
30日(日)	内 科	放射線科	耳鼻咽喉科	眼 科
31日(月)	内科(二次待機)		外科(二次待機)	

	内科系当直		外科系当直	
	8:30～17:30	17:30～翌8:30	8:30～17:30	17:30～翌8:30
平成20年1月1日(火)	内 科	麻酔科	整形外科	外 科
2日(水)	内 科		外 科	麻酔科
3日(木)	皮膚科	内科	外 科	整形外科

※急患は当直科以外でも対応いたします。 ※小児科、産婦人科は連日待機しております。

編集後記

年末恒例の院長鍋(野菜タップリの猪汁)が今年は食べられず残念です。巻頭の院長挨拶の通り、来春の復帰が実現することを職員一同待ち望んでいるところです。

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考（専門分野・特徴など）
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	部長	岡村 秀樹			●		●				●		血液疾患
	医長	松見 里美	●				●				●		消化器疾患
	〃	野口 誠司	●		●				●				肝臓・胆嚢・膵臓疾患・消化器疾患
	〃	藤澤 伸光	●				●				●		呼吸器疾患
	〃	村上 謹士郎			●				●				循環器疾患
	〃	久間 文明			●		●		●				循環器疾患
	〃	原口 総一郎	●						●				腎臓疾患
	〃	松永 圭司			●						●		消化器疾患
	医員	安田 潮人	●				●				●		循環器疾患
	〃	宮原 貢一	●						●				消化器疾患
	〃	伊地知 佳世			●				●				呼吸器疾患
	〃	中野 良					●				●		消化器疾患
	〃	田渕 久美子									●		循環器疾患
糖尿病教室								●		●		●	（第2・3週のみ）※詳細は内科外来へお尋ね下さい。
小児科	部長	岡 尚記	●		●						●		小児一般、小児アレルギー疾患、気管支喘息
	医長	合田 裕治	●				●		●				※▲は病棟回診後に診察開始のため遅れたり、外来診察ができない場合があります。
	医員	蓮把 朋之	▲		●		●				▲		
	〃	小松 博子							●		●		
	乳児健診					●							火曜 PM1:00～
	慢性外来							●					水曜 PM2:00～
外科	外科顧問	松永 章							●				内視鏡下外科・一般外科・消化器外科
	部長	松本 敦	(●)				●		●				内視鏡下外科・一般外科・消化器外科（月曜日は紹介のみ受付）
	医長	澤田 健太郎	●				●						血管外科・一般外科 ※月曜～金曜の午後は手術
	〃	川畑 方博			●						●		一般外科・肝胆膵外科 ※乳癌検診は、10時までに
	〃	原田 洋			●						●		一般外科・消化器・乳腺外科 受付を行って下さい。
	〃	武田 雄二			●						●		呼吸器外科 ※ストーマ外来は水曜日の
	医員	村田 一貴	●				●						一般外科・消化器外科 13時30分～16時30分まで
脳神経外科	〃	五反田 幸人							●				一般外科・消化器外科（要予約）
	院長	福井 仁士											脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊椎外科
	部長	金子 陽一	●				▲		●		●		小児脳神経外科、顔面痙攣、三叉神経痛の外科手術
神経内科	医員	井上 大輔	●						●				※▲は手術のため、外来診察ができない場合があります。井上医師は12/31で退職予定です
	医員	九州大学神経内科医									●		神経内科疾患一般（要予約）
整形外科	診療部長	萩原 博嗣	●				●				●		骨関節疾患全般
	医長	久我 尚之			●		●		●				・股・膝関節の関節形成術、人工関節置換術
	〃	寺本 全男	●						●		●		・膝・肩・手・肘の鏡視下手術
	医員	花田 麻須大	●		●						●		・脊椎外科、腰部疾患手術
	〃	田中 智顕			●				●		●		・肩・手の外科
	〃	中川 憲之	●		●		●						・リウマチ、スポーツ整形外科、足の外科など
皮膚科	〃	河村 好香					●		●				・骨・軟部腫瘍
	医長	中房 淳司	●	●	●		●		●	●	●		アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、足白癬、帯状疱疹
泌尿器科	医員	御塚 加奈子	●	●	●		●		●	●	●		皮膚腫瘍、その他
	〃												皮膚小手術（火・水・金の午後）
泌尿器科	部長	山田 潤	●				●				●		尿路結石、尿路腫瘍、前立腺疾患
	医長	犬塚 周			●				●		●		体外衝撃波結石破砕術（ESWL）
	〃	中村 貴生	●						●				尿失禁、尿路感染
	医員	東武 昇平			●		●						※ストーマ外来は水曜日の13時30分～16時30分まで（要予約）
産婦人科	副院長	木寺 義郎	●				●				●		産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	医長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				体外受精・胚移植術、腹腔鏡下手術
	〃	新谷 可伸			●		●		■		●		更年期・婦人科疾患
	医員	梅崎 美奈	●		●				●		■		※●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	〃	岩永 巖	●■				●■				●		
眼科	医長	宇野 英明	●		●		●	※	●		●		白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、網膜剥離手術、眼瞼下垂手術
	医員	小山田 剛	●		●		●	※	●		●		翼状片手術、レーザー光凝固術、光線力学療法、眼瞼痙攣のボツリヌス注射など
耳鼻咽喉科	〃												※水曜の午後は術前検査と特殊再来（要連絡）
	医長	佐藤 公治	●		●		●		●	●	●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療・小児の耳鼻咽喉科疾患
放射線科	医員	渡邊 智	●	●			●		●		●		耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術
	〃												
放射線科	医長	野々下 政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	医員	角 明子											消化管造影、内視鏡検査
	〃	土橋 一代											内視鏡下手術（ポリープ切除）
麻酔科	部長	深野 拓	●				●		●				月～金午前ペイン外来
	医長	吉村 真紀	●						●		●		月～金午後は手術麻酔
	医員	鶴瀬 匡祐			●		●				●		
	〃	木本 文子	●		●				●				
	〃	小野 春奈			●		●						
歯科・口腔外科	〃	別府 幸岐									●		
	医長	川村 英司	●	●	●	●	●	●	●		●	●	歯科・口腔外科（紹介患者のみ新患受付）
													顎変形症(外科的矯正)・インプラント・歯牙移植・顎関節症・マウスピースなど